

JOMF 派遣医師便り (2015. 4)

◆ジャカルタ◆

お世話になりました。

JJC 医療相談室
原 稔

2009年12月に赴任して以来、このコーナーを執筆させていただきましたが、今回は最後になります。5年余りに渡ってお付き合いいただき、誠にありがとうございました。

思えば、インドネシア人と日本人との感覚の違いの板挟みで過ごしたジャカルタ駐在でした。印象に残っていることの一つは、ゴム時間(jam karet)です。インドネシアの人は時間に寛容です(日本人が厳格すぎるのかもしれませんが)。飲み会の待ち合わせならば、ちびちびとやっていけばいいのですが、外来の診察ではそうはいきません。周りのスタッフをいつも急かしていました。

ローカルの医者も平気で遅れます。悪びれる様子はありません。下手をするとドタキャンされます。したがって、患者さんを紹介するときは、そのようなこともあり得ることを十分に説明しておく必要があります。もちろん、時間に正確なドクターもいますが、多くはゴム時間です。

時間感覚以外にも気を使いました。インドネシア人の中には、待合室の中で大声を出して話し、ものを食べ散らかす人がいます。熱を出して診察を待っている日本人患者はたまりません。その都度、ローカルスタッフに「なんとかせい」と言ってきました。

携帯電話の使い方も違います。電車やバスの中はもちろんのこと、医療機関の中でも呼び出し音が鳴り響き、普通に話しています。診察している後ろで、新人看護師が携帯をピコピコやっていたときは、蹴飛ばしてやろうかと思いました。

今、新幹線の中で原稿を書いています。時刻表通りに運行中です。大声で携帯を使う人はいません。電車を降りるときはシートを戻し、出したゴミを持って行きます。きれいな国に生まれたなと思います。

日本の感覚に慣れた頃、またインドネシアへ行きたくなるのでしょうか。重ね重ね、ありがとうございました。